

スーパーマーケット販売統計調査資料

2019年1月実績 速報版(パネル 270)

12月実績 確報版(パネル 270)

(2019年2月21日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016年4月実績よりパネル対象企業変更(275社→270社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1m²あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカーリー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2019年2月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2019年1月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	87,620,871	100.0%	99.1%	97.9%
食品合計	78,720,996	89.8%	99.2%	98.1%
生鮮3部門合計	30,574,185	34.9%	97.8%	96.8%
青果	12,150,860	13.9%	94.9%	94.0%
水産	7,973,103	9.1%	100.1%	99.1%
畜産	10,450,223	11.9%	99.5%	98.4%
惣菜	9,032,507	10.3%	101.6%	100.2%
日配	16,793,650	19.2%	99.2%	98.2%
一般食品	22,320,654	25.5%	100.1%	99.2%
非食品	6,421,981	7.3%	98.0%	98.0%
その他	2,477,937	2.8%	100.2%	94.3%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	11,843,278	43	99.7%	98.3%
関東地方	31,993,940	73	98.9%	97.6%
中部地方	10,810,277	53	99.5%	99.1%
近畿地方	19,696,416	44	99.2%	98.6%
中国・四国地方	8,504,919	34	98.2%	96.9%
九州・沖縄地方	4,772,041	23	98.5%	95.8%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	619,434	45	93.5%	94.3%
4~10店舗	3,848,475	73	98.2%	97.9%
11~25店舗	9,489,424	62	98.6%	97.9%
26~50店舗	15,361,556	46	98.7%	98.2%
51店舗以上	58,301,982	44	99.3%	97.9%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	85,356,575	
総店舗数 (店舗)	7,967	店舗平均月商 (万円)	10,998	
総売場面積 (㎡)	13,186,342	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.6	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2019年2月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2018年12月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	105,072,050	100.0%	99.6%	98.6%
食品合計	94,512,253	89.9%	99.8%	98.6%
生鮮3部門合計	36,368,821	34.6%	98.5%	97.2%
青果	13,707,615	13.0%	95.5%	94.3%
水産	10,412,515	9.9%	100.4%	98.9%
畜産	12,248,690	11.7%	100.3%	99.1%
惣菜	10,600,451	10.1%	101.3%	99.9%
日配	19,550,595	18.6%	100.1%	99.1%
一般食品	27,992,386	26.6%	100.8%	99.8%
非食品	7,592,745	7.2%	97.3%	96.9%
その他	2,967,103	2.8%	98.3%	98.9%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	15,467,942	43	100.3%	99.0%
関東地方	38,859,466	73	100.0%	99.0%
中部地方	13,132,582	53	99.9%	98.9%
近畿地方	21,176,868	44	98.5%	97.8%
中国・四国地方	10,556,532	34	99.8%	98.2%
九州・沖縄地方	5,878,662	23	97.6%	97.9%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	788,843	45	93.0%	94.6%
4~10店舗	4,667,113	73	98.1%	97.6%
11~25店舗	11,519,846	61	98.3%	97.8%
26~50店舗	19,673,102	46	99.4%	98.5%
51店舗以上	68,423,146	45	99.9%	98.9%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	102,415,013	
総店舗数 (店舗)	8,009	店舗平均月商 (万円)	13,119	
総売場面積 (㎡)	13,194,554	売場1㎡あたり売上高 (万円)	8.0	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2019年1月エリア別気候状況

1. 1月気温の特徴：東・西日本で高かった。北日本では平年並だった。

上旬：北・東・西日本では平年並だった。

中旬：東・西日本と沖縄・奄美で高かった。北日本では平年並だった。

下旬：東・西日本で高かった。北日本と沖縄・奄美では平年並だった。

2018年1月との比較：中旬から下旬にかけて前年よりかなり気温が高くなった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2019年1月			2018年1月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	0.0	0.2	1.2	2.8	1.6	-0.8	-2.8	-1.4	2.0
東北地方	0.4	0.9	0.4	1.0	1.0	-2.1	-0.6	-0.1	2.5
関東甲信地方	-0.2	1.3	0.6	0.3	1.1	-1.8	-0.5	0.2	2.4
北陸地方	-0.2	1.3	0.6	-0.1	-0.1	-2.0	-0.1	1.4	2.6
東海地方	0.2	1.2	0.7	-0.2	0.7	-2.0	0.4	0.5	2.7
近畿地方	0.1	1.2	0.9	0.1	1.2	0.9	0.0	0.0	0.0
中国地方	0.4	1.7	1.5	0.1	-0.1	-2.2	0.3	1.8	3.7
四国地方	0.3	1.6	1.4	-0.4	-0.1	-2.2	0.7	1.7	3.6
九州北部	0.1	1.9	1.7	-0.4	-0.1	-2.3	0.5	2.0	4.0
九州南部・奄美地方	0.6	1.6	1.2	-0.2	-0.1	-1.6	0.8	1.7	2.8

平年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

前年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

2. 1月日照時間の特徴：西日本日本海側でかなり多く、北・西日本太平洋側と東日本で多かった

上旬：北日本太平洋側でかなり多く、東日本太平洋側で多かった。一方、沖縄・奄美でかなり少なく、北日本日本海側で少なかった。

中旬：北日本と東・西日本日本海側で多かった。一方、沖縄・奄美で少なかった。

下旬：北日本太平洋側で少なかった。一方、西日本と沖縄・奄美でかなり多く、東日本太平洋側で多かった。

2018年1月との比較：上旬と下旬はやや多く、中旬はやや少なくなった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2019年1月			2018年1月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	99	119	91	53	108	76	46	11	15
東北地方	94	113	88	111	128	78	-17	-15	10
関東甲信地方	121	114	111	109	115	104	12	-1	7
北陸地方	101	114	100	73	133	54	28	-19	46
東海地方	108	106	104	99	137	95	9	-31	9
近畿地方	96	104	99	83	137	108	13	-33	-9
中国地方	113	127	119	86	111	96	27	16	23
四国地方	102	110	125	93	114	100	9	-4	25
九州北部	121	114	111	89	96	101	32	18	10
九州南部・奄美地方	97	87	163	80	137	90	17	-50	73

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~49%

3. 1月降水量の特徴：北・東日本太平洋側と西日本日本海側でかなり少なかった。

上旬：北・西日本と東日本太平洋側でかなり少なく、東日本日本海側で少なかった。一方、沖縄・奄美では多かった。

中旬：北日本太平洋側でかなり少なく、北・西日本日本海側と東日本で少なかった。一方、沖縄・奄美で多かった。

下旬：北日本と東・西日本日本海側で多かった。一方、沖縄・奄美で少なかった。

2018年1月との比較：上旬から中旬にかけてかなり少なく、下旬はやや多い地域が多かった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2019年1月			2018年1月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	50	65	111	136	94	116	-86	-29	-5
東北地方	33	35	65	76	113	113	-43	-78	-48
関東甲信地方	5	9	59	132	96	78	-127	-87	-19
北陸地方	76	77	98	110	152	0	-34	-75	98
東海地方	5	16	73	199	88	52	-194	-72	21
近畿地方	18	29	91	172	123	55	-154	-94	36
中国地方	19	36	114	138	0	75	-119	36	39
四国地方	1	52	73	225	104	59	-224	-52	14
九州北部	10	49	111	202	0	64	-192	49	47
九州南部・奄美地方	14	67	31	195	73	76	-181	-6	-45

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~49%

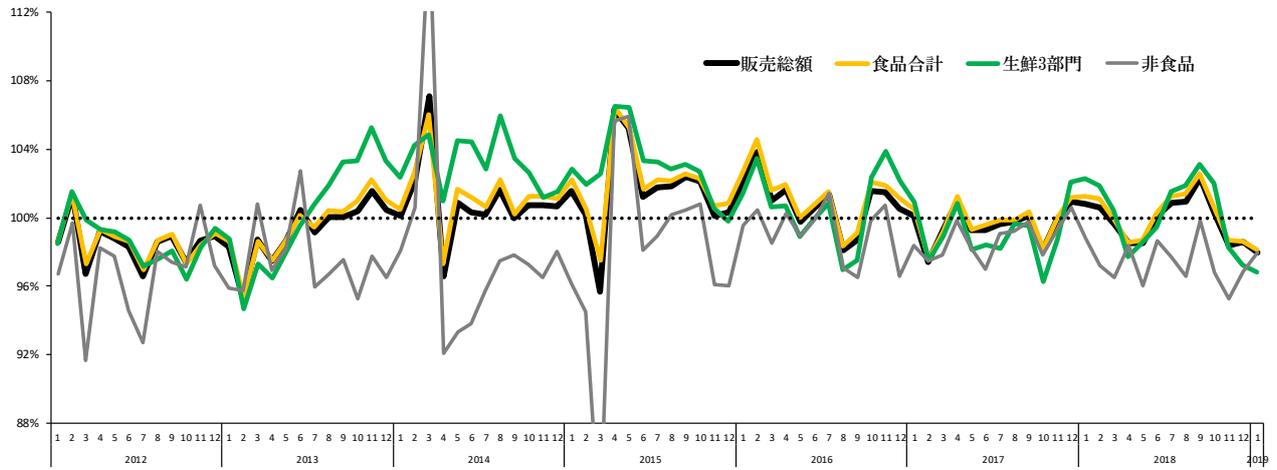
気象庁ホームページ・報道発表資料「1月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年~2010年）の平均

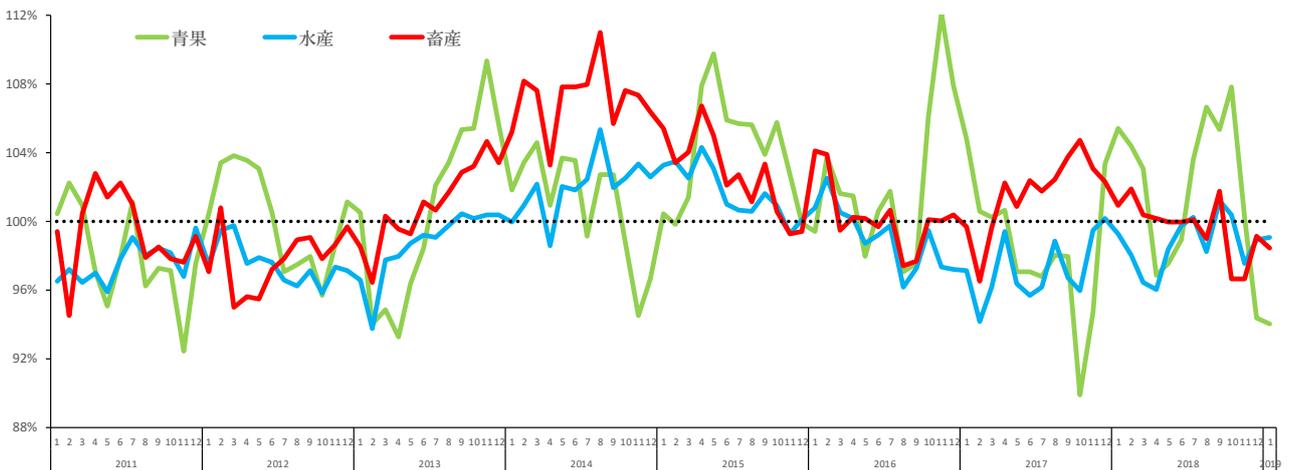
スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2010年4月～

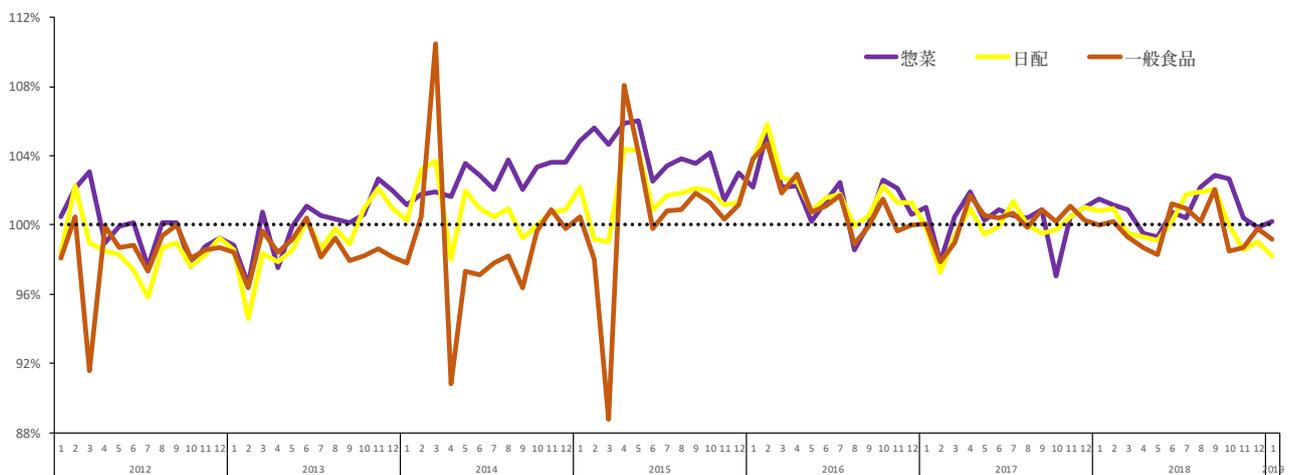
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2018年12月までは確報版による前年同月比、2019年1月は速報版による前年同月比

スーパーマーケット景気動向調査

2019年2月調査結果（1月実績）
（2019年2月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

2月調査（1月実績）結果概況

景気判断DIは2012年11月以来の30台まで悪化

1月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は前月から-3.7の39.6、見通し判断は前月から-2.2の39.4となり、共に30台まで悪化した。現状判断DIが30台を記録したのは、2012年11月以来。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共に3ヵ月連続で二桁マイナス圏を記録した。青果相場安に加え、前年高騰からの反動が加わり、生鮮仕入原価DIは-6.5まで低下した。また前年の降雪予報による買いだめ需要の反動により、買い上げ点数も伸び悩み、客単価DI-7.8まで低下した。来客数DIは前月よりやや上昇したものの-14.0と低迷している。

カテゴリー動向調査では、青果相場安に加え前年より高い気温により、鍋用商材を中心に不振となり、青果DIが-23.4と2ヵ月連続で大幅なマイナスを記録した。また畜産DIや日配DIも気候や買いだめ需要の反動を受け二桁のマイナスまで低下した。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、特に現状判断の悪化幅が大きく、調査開始以来の最低水準まで悪化した。これまで堅調に推移してきた周辺地域景気判断にも下降トレンドが鮮明となっている。（周辺地域景気動向DI長期傾向参照）

高い気温、相場安、買いだめの反動と前年との比較での悪条件が重なり、景況感は大幅な悪化をみせた。加えて、周辺地域景気判断DIの悪化にみられるように、消費環境にも黄色信号が点灯している。2014年以降、主に客単価上昇に支えられ堅調に推移してきた。この先も外部環境の好転が期待できないなか、再び上昇基調を取り戻すために、来客数や客単価に対する抜本的な対応が必要な時期を迎えている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月： 39.6 (-3.7) 前月：43.3	消費者購買意欲DI 当月： 40.3 (-3.7) 前月：44.0	周辺地域 競合状況DI 当月： 40.0 (+0.4) 前月：39.6	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 43.0 (-2.3) 前月：45.3
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月： 39.4 (-2.2) 前月：41.6	消費者購買意欲DI 当月： 40.3 (-0.9) 前月：41.2	周辺地域 競合状況DI 当月： 38.9 (-0.1) 前月：39.0	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 42.5 (-1.6) 前月：44.1
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月： -16.8 (-3.2) 前月：-13.6	客単価DI 当月： -7.8 (-6.0) 前月：-1.8	来客数DI 当月： -14.0 (+2.1) 前月：-16.1	
収益DI 当月： -12.1 (-1.8) 前月：-10.3	販売価格DI 当月： -4.2 (+0.1) 前月：-4.3	生鮮品仕入原価DI 当月： -6.5 (+0.1) 前月：-6.4	食品仕入原価DI 当月： 1.2 (-0.6) 前月：1.8

カテゴリー動向

青果DI 当月： -23.4 (+1.5) 前月：-24.9	水産DI 当月： -5.4 (-0.3) 前月：-5.1	畜産DI 当月： -12.0 (-2.4) 前月：-9.6	
惣菜DI 当月： -2.2 (+2.0) 前月：-4.2	日配DI 当月： -14.6 (-4.7) 前月：-9.9	一般食品DI 当月： -9.3 (-3.0) 前月：-6.3	非食品DI 当月： -9.9 (+1.5) 前月：-11.4

○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

2月調査（1月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

3ヵ月続けて二桁マイナスを記録し低迷

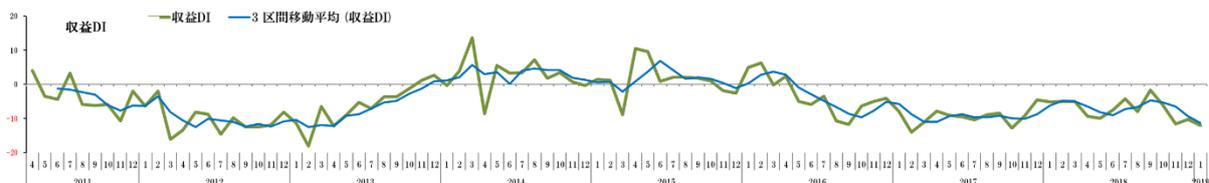
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	15.6	40.0	30.0	12.2	2.2	-13.6
売上高（当月）	18.6	43.7	24.6	12.6	0.6	-16.8



2. 収益DI

3ヵ月続けて二桁マイナスを記録し低迷

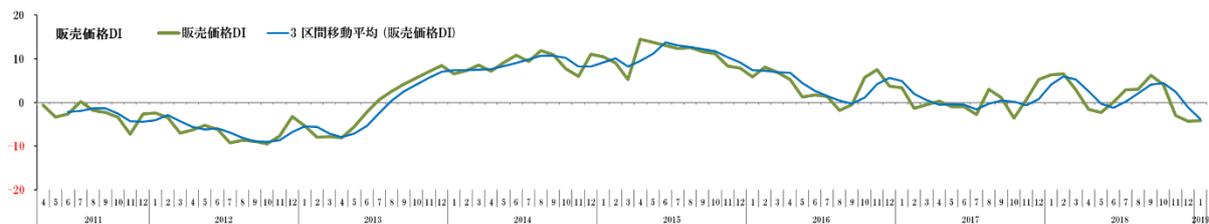
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	11.2	39.9	33.1	10.1	5.6	-10.3
収益（当月）	14.1	41.7	25.2	16.6	2.5	-12.1



3. 販売価格DI

小幅なマイナス圏での横ばい推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	1.7	25.7	60.9	11.7	0.0	-4.3
販売価格（当月）	1.2	25.7	61.7	11.4	0.0	-4.2



4. 客単価DI

マイナス幅を拡大し、2015年3月以来の水準まで低下

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	1.1	28.5	48.0	21.2	1.1	-1.8
客単価（当月）	0.6	43.1	43.1	13.2	0.0	-7.8



5. 来客数 DI

やや回復も二桁マイナス圏での低迷続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	15.6	43.6	30.7	9.5	0.6	-16.1
来客数 (当月)	16.3	39.8	29.5	12.7	1.8	-14.0



6. 生鮮仕入原価 DI

3 カ月連続でマイナス圏での推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	8.5	27.1	45.8	18.6	0.0	-6.4
生鮮仕入原価 (当月)	6.1	31.5	45.5	16.4	0.6	-6.5



7. 食品仕入原価 DI

小幅プラス圏での横ばいでの推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.2	9.6	68.0	19.1	1.1	1.8
食品仕入原価 (当月)	2.4	10.8	66.9	19.3	0.6	1.2

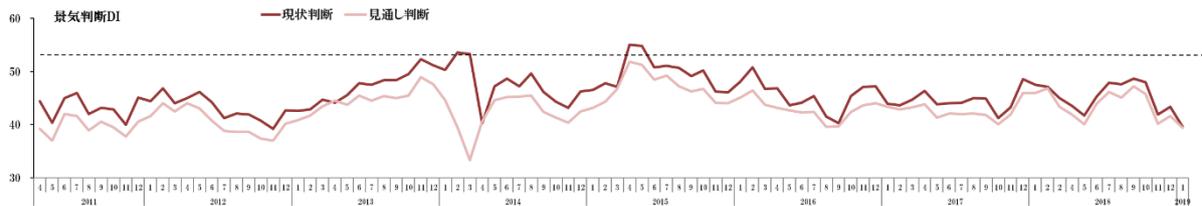


II. 景況感調査（2011年4月～／周辺地域景気判断のみ 2010年4月～）

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断は2012年11月以来の30台まで悪化

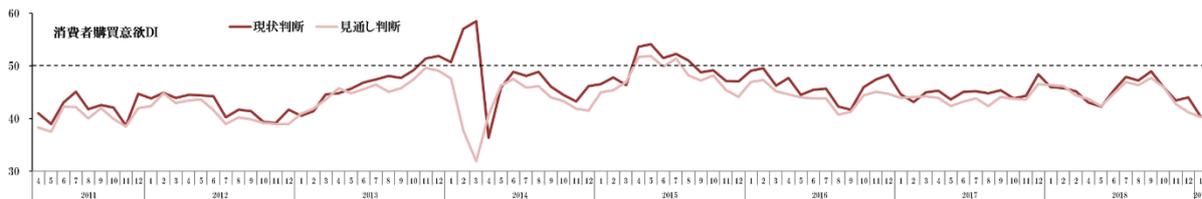
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	5.0	27.2	58.3	8.3	1.1	43.3
【現状】景気判断（当月）	5.4	35.7	54.2	4.8	0.0	39.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	5.6	30.2	57.0	6.7	0.6	41.6
【見通し】景気判断（当月）	5.4	36.5	53.3	4.8	0.0	39.4



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は大幅に悪化するも、先行きは小幅な悪化にとどまる

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	1.7	28.3	62.8	6.7	0.6	44.0
【現状】購買意欲（当月）	2.4	39.5	52.7	5.4	0.0	40.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	2.2	34.1	60.3	3.4	0.0	41.2
【見通し】購買意欲（当月）	3.0	37.7	54.5	4.8	0.0	40.3



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に大きな変化はみられず

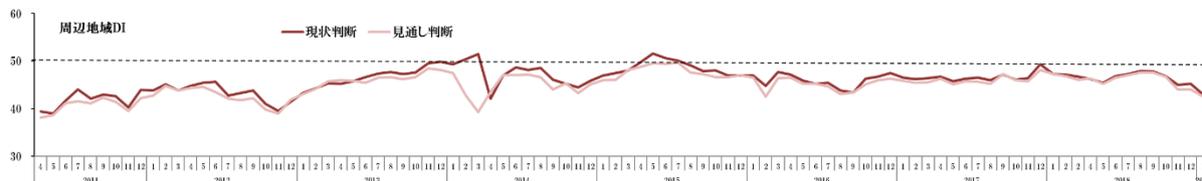
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	6.7	30.9	59.6	2.8	0.0	39.6
【現状】競合状況（当月）	6.0	30.5	61.1	2.4	0.0	40.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	7.3	31.6	58.8	2.3	0.0	39.0
【見通し】競合状況（当月）	6.0	34.7	56.9	2.4	0.0	38.9



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断ともに悪化

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.7	17.9	78.2	2.2	0.0	45.3
【現状】地域景気 (当月)	2.4	24.6	71.9	1.2	0.0	43.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	1.7	21.9	74.7	1.7	0.0	44.1
【見通し】地域景気 (当月)	2.4	25.7	71.3	0.6	0.0	42.5



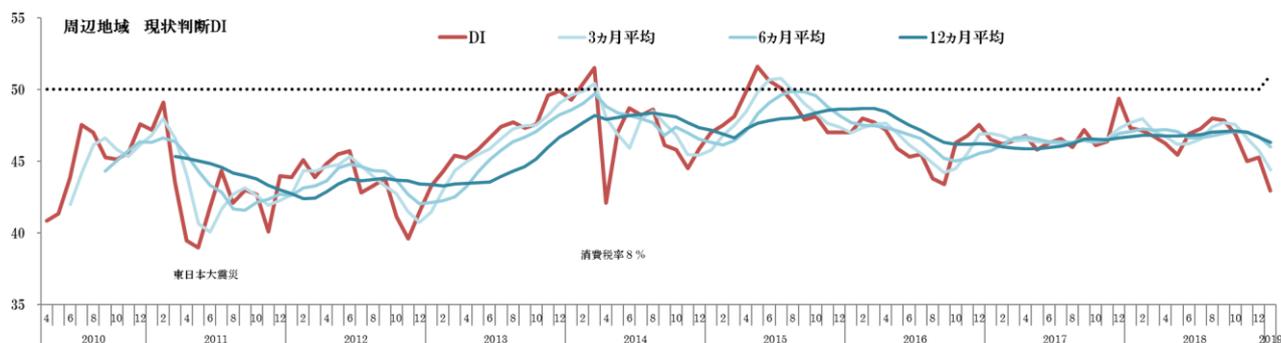
※長期傾向 (2010年4月～)

11年3月の東日本大震災後低迷が続いていたDIは、12年11月から16ヵ月にわたり改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。

14年4月の消費税率引き上げにより大きく悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には調査開始以来の最高値を更新し、現状判断DIは51.6にまで達した。

しかしこれをピークとし、その後15ヵ月にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以降やや改善傾向が続いていたが、18年に入り悪化が続き、5月には移動線付近を下回る水準まで低下した。その後6月以降は持ち直し改善傾向が続いた。

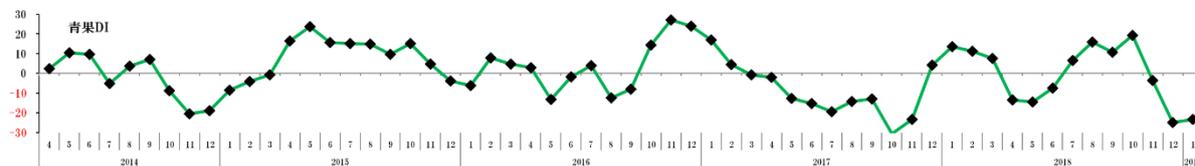
10月から再び悪化幅を広がり、11月にはすべての移動平均線がマイナス方向に転換し、弱含みの推移となっている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-23.4（かなり不調）

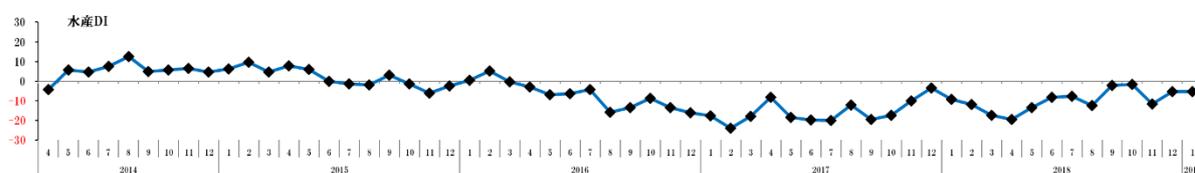
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果 (前月)	32.9	42.4	17.1	6.5	1.2	-24.9
青果 (当月)	34.4	38.8	15.6	8.8	2.5	-23.4



前月から白菜や大根など大型野菜を中心として相場安が続いており、加えて前年の相場高騰からの反動も加わり、単価が大幅減となった影響を受けた。また前年より気温が高く、菌類など鍋物関連野菜の動きが悪くなった。サラダ関連やカット野菜も伸び悩んだが、相場の安定しているトマトやピーマン、健康報道のあった玉ねぎなどは比較的堅調となった。国産果物類は好調とする店舗が多く、前年高騰により不調であったみかんをはじめ、イチゴ、りんご、輸入果物ではキウイフルーツの動きがよかった。

2. 水産DI：-5.4（やや不調）

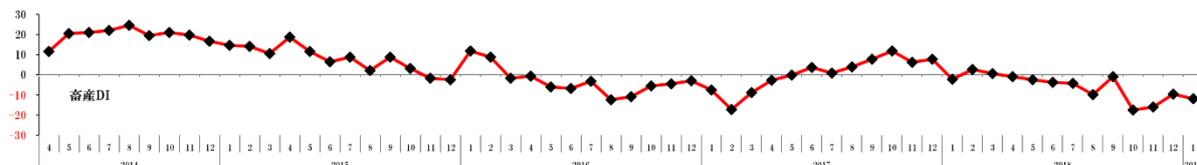
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産 (前月)	10.6	31.8	29.4	24.1	4.1	-5.1
水産 (当月)	11.4	29.1	32.3	24.1	3.2	-5.4



前年より高い気温により鍋物用食材（ぶりや牡蠣、タラなど）の不振が続いた。気温が低下した地域ではエビやカニに回復傾向がみられた。生魚は引き続き、水揚げ量の減少や価格高騰により苦戦している。年始商戦の刺身類は好調に推移したものの、その後は伸び悩んだ。一部にはサラダ用や簡便商品の取扱い強化の動きもみられた。アニサキス報道による低迷からの回復を指摘するコメントもみられた。

3. 畜産DI：-12.0（不調）

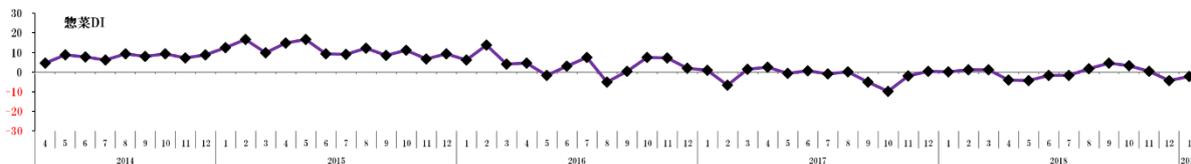
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産 (前月)	12.9	33.5	34.1	17.6	1.8	-9.6
畜産 (当月)	14.3	39.1	28.0	17.4	1.2	-12.0



前年より気温が高い地域が多く、鍋物用を中心に動きが悪かった。牛肉は焼肉やステーキ用などが焼きメニューが堅調だが、年始はブランド牛の動きもよかったが、その後は輸入牛が牽引した。豚肉は相場が下落傾向にあり、価格訴求により販売数量を伸ばした店舗が多かった。鶏肉は気候条件に加え、相場の低下も影響しており、伸び悩んだ。ハムやソーセージなどの加工肉を特に不調にあげるコメントが多かった。

4. 惣菜DI：-2.2（やや不調）

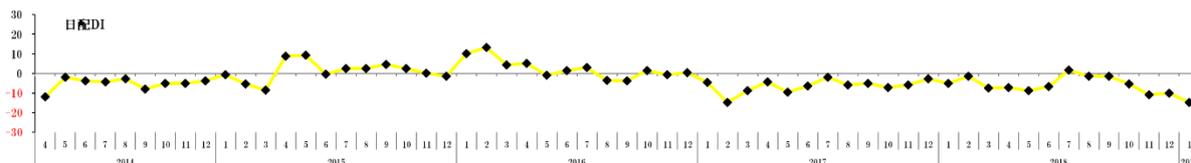
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	5.4	32.3	40.7	16.8	4.8	-4.2
惣菜（当月）	6.3	26.6	39.2	25.3	2.5	-2.2



雨や雪が少ないなど天候に恵まれたため、弁当やおにぎりなどが好調に推移した店舗が多かった。年始商戦のオードブルなども好調に推移した。旬の食材を使った季節感のある商品の動きがよい一方で、前年青果相場の高騰により好調であったサラダ関連は反動で不振、寿司類も不調となった。人手不足により十分に商品供給ができなかった店舗もみられた。

5. 日配DI：-14.6（不調）

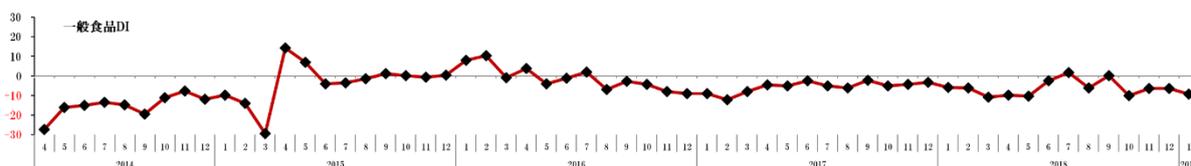
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	12.9	31.0	40.9	13.5	1.8	-9.9
日配（当月）	15.5	39.1	34.2	10.6	0.6	-14.6



前年より高い気温により、鍋おでん商材関連の和日配や麺類などのホットメニューの動きが悪かった。また前年との青果相場の違いにより、漬物や冷凍野菜は不調となった。健康報道により納豆、甘酒、梅干しには特需が続いている。機能性ヨーグルトはインフルエンザ流行により好不調が分かれた。牛乳は不調だが、チーズを好調とするコメントが多い。冷凍食品やパン類には前年降雪予報時の駆け込み需要からの反動がみられた地域もあった。

6. 一般食品：-9.3（やや不調）

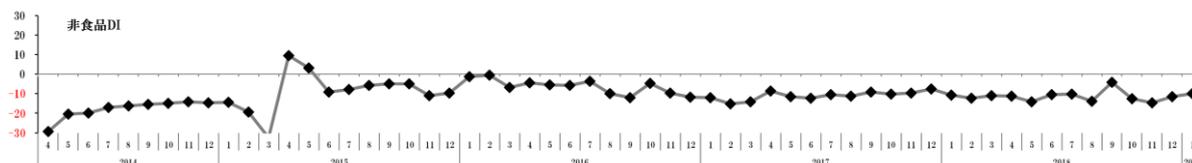
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	7.1	31.8	41.2	19.4	0.6	-6.3
一般食品（当月）	11.2	32.9	39.8	14.3	1.9	-9.3



前年より高い気温により鍋用調味料や麺類やシチューなどホット商材は総じて不振となったが、飲料類は堅調に推移した。野菜相場安の影響か、ドレッシングやマヨネーズが好調とのコメントもみられた。報道によりサバ缶をはじめとする水産缶詰やえごま油などの食油、もち麦などの雑穀に特需が継続している。米類はやや伸び悩んでいる。酒類はウイスキーが好調とのコメントが多い。ドラッグストアやディスカウントストアとの価格競争を厳しさへの指摘が目立った。

7. 非食品DI：-9.9（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	13.3	34.3	39.2	11.4	1.8	-11.4
非食品（当月）	12.2	34.0	35.9	17.3	0.6	-9.9



前年より高い気温により衣料品やカイロなどの季節品は不調となったが、マスクなどのインフルエンザ対策用品の動きがよかった店舗がみられた。タバコは値上げ後の落ち込みが落ち着き堅調に推移した。ホームセンターやドラッグストアなどの競合が厳しく低迷が続いている。

カテゴリー別DIによる好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2019年2月調査（1月実績）キーワードTOP3

1. 青果相場安（前年高騰）
2. 冬物商材不振（前年より高い気温）
3. 降雪予報による買いだめ需要からの反動

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

1月実績速報版 168社
 12月実績確報版 180社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp